

運営費交付金に反映する指標の判定（案）
（静岡県公立大学法人）

● 第 4 期中期計画評価指標達成状況（令和 7 年度）

区 分		定量			定性
		指標数	達成	未達成	
教育研究費 （学生）	教 育	21（4）	17（4）	4（0）	0
教育研究費 （教員）	研 究	7（1）	5（1）	2（0）	0
	地域貢献	6（0）	6（0）	0（0）	0
管理運営費	法人経営ほか	15（1）	13（1）	2（0）	3
合 計		49（6）	41（6）	8（0）	3

※（ ）は困難指標の数（内数）

<静岡県公立大学法人第4期中期計画評価指標達成状況一覧> 【達成】 (41指標)

【達成】

- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指標	目標数値	成果指標としての考え方	成果活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標の結果
教育	1	学生生活実態調査の評価点	学生生活実態調査の「大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力を理解している。」の評価点 平均4点以上	教育プログラムの適切さや効果を評価	成果	標準	4.18点	○	○
		国家試験合格者の目標達成状況	国家試験の合格率について学部等が設定する目標を達成した件数：5件以上／7件	国家試験合格率を用いることで、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに基づく教育の効果を評価し、学生が必要な知識や技能を確実に身に付けているかを検証	成果	標準	5件	○	○
	2	学生生活実態調査の評価点	学生生活実態調査の「教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。」の評価点 平均4点以上	教職員が質の高い教育を提供し、積極的に関わっていること、教育活動の改善が適切に行われていることを確認	成果	標準	4.34点	○	○
	3	FD研修参加率	FD研修参加率 90%/年 ※年に1回以上FD研修に参加した教員数/全教員数（特任教員除く）	教員の成長促進と教育の質の向上を通じ、組織全体の教育改善が効果的に進められているかを検証	活動	標準	0.952	○	○
	4	特別講義の実施件数	特別講義の実施件数 150件以上/年	特別講義による様々な分野で活躍する講師の授業を通じ、学生に学びの機会を提供	活動	標準	159件	○	○
	5	学生生活実態調査の評価点	学生生活実態調査の「大学での学びによって、地域への理解愛着が深まった。」の評価点 平均4点以上	教育活動が学生の地域理解と愛着の深まりに寄与しているかを評価	成果	標準	4.22点	○	○
	7	学生生活実態調査の評価点	学生生活実態調査の「ICTを活用した授業で、学びが深まった。」の評価点 平均4点以上	ICTを活用した授業が学生の学びにどの程度寄与しているかを評価	成果	標準	4.08点	○	○
	8	学生生活実態調査の評価点	学生生活実態調査の「附属図書館やSALLなど大学施設を活用した自主的な学習」の評価点 平均4点以上	学生がどの程度大学施設を有効に活用しているかを評価	成果	標準	4.66点	○	○
	9	志願者倍率 【困難】	志願者倍率 直近3か年の平均以上（学部、全選抜合計）	大学のPR活動や広報活動がどれだけ効果を発揮しているかを評価	成果	困難	4.1倍 (直近3年：3.9倍)	○	◎
	10	大学院入学定員充足率(修士博士前期課程) 【困難】	大学院入学定員充足率 修士博士前期課程 100%	入学定員の充足を目指した取組を評価	成果	困難	98%	○	○
	11	大学間交流協定先との交流実績数	大学間交流協定大学との交換留学、教員交流、学生交流の実績 延べ30大学/年 ※「交換留学実績のある大学数」「教員交流実績のある大学数」「学生交流実績のある大学数」の合計。「学生交流実績」とは、交換留学以外でのフィールドワークや実習等による相互派遣を指す。	教育研究における海外の大学等との連携・交流の強化を図る。3種類の交流事業を指標とし、延べ数とすることで、大学間の包括的な交流を促進し、その濃度を測定	活動	標準	延べ31大学	○	○
	13	海外語学研修派遣学生数	海外語学研修に派遣した学生数（協定の有無を問わず） 20人以上/年	国際感覚を持つ人材を育成するため、派遣学生数のエントリー学生数及び語学研修派遣学生数で海外交流事業参加促進を検証。（協定による制限があるため、応募学生数を指標とする。）	成果	標準	30人	○	○

<静岡県公立大学法人第4期中期計画評価指標達成状況一覧>【達成】（41指標）

【達成】

- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標の結果
教育	13	交換留学派遣応募学生数	年度内に公募された交換留学に正式応募した学生数 20人以上/年	国際感覚を持つ人材を育成するため、派遣学生数のエントリー学生数及び語学研修派遣学生数で海外交流事業参加促進を検証（は協定による制限があるため、応募学生数を指標とする。）	活動	標準	21人	○	○
	15	事後保健指導の実施率	事後保健指導の実施率 第3期中期計画期間の平均以上の維持	学生定期健康診断を実施し、事後指導を行うことで健康増進を支援。要精密検査・要受診者に対して受診勧奨・保健指導を実施し、疾病の早期発見予防に繋げる。	活動	標準	84.5%（第3期平均：75%）	○	○
	16	就職率(大学、大学院)【困難】	就職率（全就職希望者数比） 大学、大学院 100%/年	学生に必要な支援、進路決定への支援を評価	成果	困難	98.7%	○	○
		就職率(短期大学部)【困難】	就職率（全就職希望者数比） 短期大学部 100%/年	学生に必要な支援、進路決定への支援を評価	成果	困難	99%	○	○
	17	後援会と連携した学生支援の取組件数	学生生活活性化プロジェクトによる支援団体数 5件以上/年	後援会との協力体制が図られ、支援活動が行われているかを把握	成果	標準	5件	○	○
研究	19	静岡県立大学発ベンチャー新規認定数	静岡県立大学発ベンチャー新規認定数 6社(第4期中期計画期間累計)	本学研究成果を社会実装する一つの手段としてのベンチャー企業を創出	成果	標準	1社	○	○
		学位論文紀要論文及び学術雑誌等掲載論文の機関リポジトリへの登録件数	学位論文紀要論文及び学術雑誌等掲載論文の機関リポジトリへの登録件数 240件（第4期中期計画期間累計）	本学機関リポジトリを通じて研究成果のオープンアクセス化と電子的発信を継続的に推進し、登録数を増やすことで、教職員の研究成果を国内外に公開し、研究の普及や教育の質向上、地域社会の発展に寄与	活動	標準	69件	○	○
	20	企業との共同出願件数	企業との共同出願件数 40件（第4期中期計画期間累計）	研究実施を測る指標。企業との協働により、地域産業にイノベーションが生まれ、地域経済を活性化	活動	標準	8件	○	○
	21	外部資金獲得金額【困難】	外部資金獲得金額 第3期中期計画期間の年度平均を超える額の維持/年	外部資金の獲得は、研究の質を高め、持続可能な研究活動を支えるための重要な要素	成果	困難	1,026,396千円 (第3期平均：975,647千円)	○	◎
		日本学術振興会特別研究員採用人数	日本学術振興会特別研究員採用人数 4人以上/年	優秀な研究人材の育成と確保を促進し、若手研究者のキャリア形成と定着を図られていることを確認	成果	標準	4人	○	○
地域貢献	22	高大連携出張講義の講義数	高大連携出張講義の講義数 100件以上/年	地域や高校との連携から、大学に興味・関心を持つ学生の受け入れを促進。新たな視点での教育の機会の増	活動	標準	116件	○	○
	23	県内就職率	県内就職率（県内就職者/全就職者） 直近3年間の平均以上/年	地域で活躍できる人材を育成し輩出していることの検証	成果	標準	59.6% (直近3か年：57.1%)	○	○
		企業自治体と連携した正課授業における参画企業自治体数	企業自治体と連携した正課授業における参画企業自治体数 50団体/年	企業・自治体と連携した人材育成の取組の実施を確認	活動	標準	72団体	○	○
	24	グローバル地域センターにおける、シンポジウム、公開講座、報告会等の開催回数	グローバル地域センターにおける、シンポジウム、公開講座、報告会等の開催回数 20回以上/年	企業、地域社会、自治体、研究機関等と交え国際交流を行うことで、社会ニーズの高い研究課題に取り組み、研究成果の発信や提言活動により地域社会へ還元	活動	標準	21回	○	○
	25	自治体等との地域課題研究への取組件数	自治体等との地域課題研究への取組件数 20件以上/年	県内各地との連携、地域課題に関する研究の県内各地域での展開	活動	標準	22件	○	○
	26	社会人向け学習講座受講者の満足度	社会人向け学習講座受講者の満足度80%以上の維持（年度） ※アンケート調査（5段階評価）において、満足度を上位2段階のいずれかに回答した者の人数のアンケート回答者全数に占める割合	受講者のニーズの理解、フィードバックを基に、講座の内容や教え方を改善し、より良い講座を提供することを目指す	成果	標準	0.949	○	○

＜静岡県公立大学法人第4期中期計画評価指標達成状況一覧＞【達成】（41指標）

【達成】

- ・成果指標（困難）が達成された場合：◎（数値化 2点）
- ・成果指標（困難）の達成度が90%以上100%未満の場合：○（数値化 1点）
- ・成果指標（標準）及び活動指標が達成された場合：○（数値化 1点）

項目	計画No.	指標	目標数値	成果指標としての考え方	成果活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標の結果
法人経営	28	FACTBOOKの発行	-	学内の組織や教育研究等に関する情報を収集・分析し、大学の活動状況を明確に提示	活動	標準	発行	○	○
	29	年度別業績評価結果	年度別業績評価（全教員）における下位評価の割合：5%未満の維持	教員評価結果を分析、活用し、下位評価を受けた教員の状況改善を促すことで、大学全体として一定水準以上の教員による体制を維持	活動	標準	0.031	○	○
	30	SD研修参加率	SD研修参加率 100% ※対象者の参加率（総合職採用者研修、若手職員研修への参加率）	法人の人材育成方針に基づき、職位や目的別を実施するSD研修への参加率を指標とすることで、職員の資質向上度を検証	活動	標準	1	○	○
	32	一般寄附金受入額【困難】	寄附金受入額 おおぞら基金一般寄附金受入額 10,000千円/年	あらゆるセクターからの資金獲得に向け、本学の推進体制を整備	成果	困難	12,987千円	○	◎
	33	支出削減につながった事業執行の見直し件数	事業執行方法の見直しにより支出削減が図られた件数 3件	教育研究の質を維持・向上させながら、支出削減の取組を効果的かつ効率的に推進	成果	標準	3件	○	○
自己点検・評価及び情報の発信	35	自己点検評価の実施と結果の公表	自己点検評価の実施と結果の公表 毎年度	大学の運営の透明性、説明責任、継続的な改善を確保し、目標達成に向けた効果的な取組が行われていることを確認	活動	標準	公表	○	○
	36	法人情報公開	ホームページでの法人情報の公開 毎年度	大学の運営における透明性と説明責任が確保されていることを確認	活動	標準	公開	○	○
	37	メディア等掲載回数	本学がメディア等に取り上げられた件数 200件/年	メディアに取り上げられた件数の評価により、広報活動の効果を測定	成果	標準	253件	○	○
その他	38	ストレスチェックで高ストレス者と判定された教職員の割合	ストレスチェックテストにおける高ストレス者の割合 12.5%以下	ストレスチェックの結果から、教職員のメンタルヘルス向上、職場環境の改善が図られていることを確認	活動	標準	0.114	○	○
	41	個人情報保護研修会受講率	個人情報保護研修会受講率 100%	教職員のコンプライアンスに対する意識の徹底、業務遂行上のリスク管理の強化	活動	標準	1	○	○
	42	ハラスメント防止研修会受講率	ハラスメント防止研修会受講率：100%	ハラスメントを未然に防止するため、防止施策の中心となる周知、啓発の研修に関する指標を設定。受講率を指標とすることで、職員がハラスメント防止を意識する環境が整っているか検証	活動	標準	1	○	○
	43	DX化により業務改善が図られた件数	DX化により業務改善が図られた件数 1件以上/年	DX化による業務改善の取組を定期的に確認し、取組が効果的に進んでいるかを評価	成果	標準	2件	○	○
	44	制度周知のための研修や広報の実施	制度周知のための研修や広報の実施 1回以上/年	男性の育児休業等の取得の推進、育児休業等を取得する教職員に対する、周囲の者の理解向上	活動	標準	1回	○	○

＜静岡県公立大学法人第4期中期計画評価指標達成状況一覧＞【未達成】（8指標）

項目	計画No.	指 標	目標数値	成果指標としての考え方	成果活動	判定基準	R7年度実績値	達成状況	成果指標の結果
教育	6	TOEIC L&R IPテストの伸び率	TOEIC L&R IPテストで2年前期までに50点以上伸びた学部学生の割合 50%以上	英語教育の効果を測定	成果	標準	47%	×	●
	10	大学院入学定員充足率(博士博士後期課程)	大学院入学定員充足率 博士博士後期課程 公立大学の全国平均以上	入学定員の充足を目指した取組を評価	成果	標準	56.8% (全国平均：64.8%)	×	●
	12	留学生満足度アンケートの満足度	留学生への満足度アンケートの満足度、第3期中期計画期間の平均以上の維持 ※留学生に対し毎年実施している満足度アンケートの満足度の項目で「大変そう思う」「そう思う」を回答した学生の割合	既存の教育プログラムや支援サービスの効果を評価し、見直しや改善を行う。留学生の満足度を高めることで、魅力的な留学先としての地位を向上	成果	標準	「大変そう思う」「そう思う」を回答した学生の割合：85.6% (第3期平均：87.1%)	×	●
	14	民間奨学金の応募件数	民間奨学金の応募件数 200件以上/年	学生の声を反映させ、また経済的支援を受けることで、安心して教育を受ける環境を整備	活動	標準	185件	×	●
研究	18	掲載論文数	全常勤教員の査読付き論文数の計 第3期の平均以上の維持	研究活動の成果を客観的に評価	成果	標準	329件 (第3期平均：344.3件)	×	●
	21	外部資金獲得件数	外部資金獲得件数 第3期中期計画期間の年度平均を超える件数の維持/年	外部資金の獲得は、研究の質を高め、持続可能な研究活動を支えるための重要な要素	成果	標準	394件 (第3期平均：404件)	×	●
その他	39	安否情報入力訓練の回答率	安否情報入力訓練の回答率 令和12年度までに90.0%以上 年度目標 R7:65.0% R8:70.0% R9:75.0% R10:80.0% R11:85.0% R12:90.0%	緊急時の迅速かつ正確に安否情報の収集	活動	標準	61.60%	×	●
	40	情報セキュリティ教職員研修会受講率	情報セキュリティ教職員研修会の受講率：100%（毎年度）	全学の情報セキュリティ意識を向上させ、情報セキュリティインシデントを未然に防止	活動	標準	0.99	×	●

<静岡県公立大学法人第4期中期計画評価指標達成状況一覧>【定性】（3指標）

項目	計画No.	指標	目標数値	成果指標としての考え方	R7年度 of 取組状況
法人経営	27	将来構想の策定と推進	・令和7年度 将来構想策定 ・令和8年度以降各年度 進捗状況のモニタリング実施 ・令和12年度 第5期中期計画への反映	大学の持続的な発展に向け将来構想が策定され適切に推進していることを評価	「静岡県公立大学法人 将来構想」について、「基本構想」として「構想のコンセプト」及び「目指すべき将来像」の委員会案を策定した。構想全体の策定は令和8年度を予定。
	31	持続可能な大学経営に向けた財務構造の在り方の検討	R7：大学の持続可能な経営に向けた財務構造の在り方の検討 R8～11：検討を踏まえた大学経営 R12：第5期中期計画への反映	大学の持続可能な経営に向けた財務構造の在り方の検討や分析の実施状況の確認	教育研究審議会、経営審議会など学内協議を通じて、本学の厳しい財政状況を教職員幹部と共有するとともに、人事研究費等の課題について協議した。令和8年度当初予算編成に当たっては削減目標を踏まえた基本方針に基づき予算編成を行った。他大学と比較しての現状分析、直近の支出削減、歳入確保策をとりまとめた。
	34	第4期中期保全計画による大規模改修工事の実施状況	第4期中期保全計画による大規模改修工事の執行状況（R7のみ記載） 外壁屋上防水修繕工事、 中央式空調設備更新工事、 個別空調設備改修工事、 低圧配電設備更新工事	計画の確実な執行により、施設の有効活用、長寿命化を推進	全9件 ●外壁・屋上防水修繕工事 ・体育館外壁改修工事 ・体育館屋根改修工事 ・看護学部棟屋上防水改修工事 ・外壁屋上防水修繕工事設計 ●中央式空調設備更新工事 ・ターボ冷凍機オーバーホール ●個別空調設備改修工事 ・空調設備更新工事設計 ・空調設備更新工事（薬学部棟） ・空調設備更新工事（はばたき棟） ●ドラフトチャンバー更新工事（※） ・ドラフトチャンバー更新工事 （※）優先度を見直し、低圧配電設備更新工事と実施年度を入替え